

安倍総理の所信表明・施政方針演説を「高齢者参加」で読む

所信表明演説は2013年1月28日。施政方針演説は2月28日

堀内正範 朝日新聞社社友 web「月刊丈風」編集人

安倍総理の「三本の矢」（金融・財政・成長戦略）政策は、その緊迫感によって国際・国内にわたる反応を呼びまし、「アベノミクス」効果として円安・株高という成果をもたらしました。いうまでもなくこれはわが日本への敬愛と信頼と期待としての表現です。

まず何よりアジア途上諸国の近代化のために技術・人材・資金を投じて貢献している先進国「日本」。かつてない2011・3・11の「天災人禍」に遭遇しながらも沈着に自力で対応している歴史と社会伝統の生きる国「日本」。先の大戦の戦禍から立ち直って貧・富をともに分かち合いながら辛苦して働きみんなで豊かになった平等社会の国「日本」。安くて丈夫で長持ちをする優良品によって暮らしを便利にしてきた産業立国「日本」。半世紀余にわたって「平和憲法」を堅持してつくりあげた平和国家「日本」。そして平和の証としての長寿者が敬愛されて過ごす世界一の長寿国「日本」。

この誇り多き「日本」の今と将来への“時価評価”にほかなりません。

なのに、国のリーダーである内閣総理大臣がどうしてこうも短命だったのでしょうか。2006年からの7年に7人。安倍晋三さん、あなたからあなたまで。新内閣が成立して認証式を終えて、にこやかに写真撮影に臨んでいる時には一年足らずで終わるとは誰も思っていないのに、決まってそういうプロセスをたどっています。

「未萌にして睹（み）る」立場にいるひとりとして結論をいいますと、内閣総理大臣を長命にする方法はひとつ、この国の「高齢者」（65歳以上・3000万人・23・3%）が潜在力を発揮して「日本長寿社会」をつくる以外に見当たりません。「青少年（生まれ育つ世代）」「中年者（生み育てる世代）」そして「高年者（生をいとおしむ世代）」がそれぞれ相応に参加して、「日本長寿社会＝超高齢社会＝三世代多重型社会」をつくることによって、「経済全体のパイ」が確保でき、これまでとは次元の違う大胆な政策パッケージが可能となり、内閣総理大臣も人気と任期の長命（政権の安定）を得ることになります。

この10年余は経済のグローバル化（アジア途上諸国の日本化・先進国日本の途上国化）対応のために若年・中年層の「成長活力」だけが期待され強調されてきました。その間、3000万人に達した高齢者層の「成熟・継承活力」は留保され、経済成長のパイの外に置き去りにされてきたのです。

安倍総理の所信表明・施政方針演説には残念ながら「高齢者参加」についての発言は見当たりません。以下は、「高齢者参加」が認識された視点による両演説の読み込みです。（*青色）のような意識が安倍総理から表明されてはじめて、「高齢者参加」への呼びかけとなり、「支える高齢者」層にいざ出動の気概が生まれるのです。

◎所信表明演説 2013年1月28日。

・（優れた国産品・地産品・サービスなどを新たに創出する高齢者が参画する）持続的な経済成長を通じて（多様で豊かな）富を生み出すことができなければ「経済全体のパイ」は縮んでいってしまいます。

・(高齡者層のみなさんの参画をえて)これまでとは次元の違う(成長・成熟・継承という)大胆な政策パッケージを提示します。

・「(青少年・中年・高年すべての世代の人びとの)暮らしの安心・(地域に住む高齡者のもつ知識・技術・経験・資産の参画による)地域活性化」

・(高齡者層による新たで積極的な)民間の投資と(増えつづける高齡者層が優れた国産品・地産品・サービスなどを要請する)消費が持続的に拡大する成長戦略

・「(生まれ育つ世代、生み育てる世代、生をいとおしむ世代の三世代すべての国民が)健康で長生きできる社会」

・「(ライフ・イノベーション」(<生から死までの人間存在にかかわる>技術革新)と「三世代多重型社会」への)制度改革

・「(人生90年時代」の)未知の領域に果敢に挑戦をしていく精神

・今こそ、(国際的に先行する「日本高齡社会」の形成で)世界一を目指していこう

・若者もお年寄り(注：安倍総理の発言。弱者の視点で)も、年齢や障害の有無にかかわらず、全ての人々が生きがいを感じ、何度でもチャンスを与えられる社会。

・「(一人ひとりが生涯にわたって)自らの力で成長(・成熟・継承)していこう」という気概を失ってしまつては、個人も、国家も、明るい将来を切り開くことはできません。

・(高齡者もまた)自らの中に眠っている新しい力を見いだして、これからも成長(・成熟・継承)していくこと。

・「強い日本」を創るのは、他の誰でもありません。私たち自身(青少年・中年者・高年者層のすべての国民の積極的な参加)です。

◎施政方針演説 2013年2月28日

・私たち(高齡者もまた)自身が誰かに寄り掛かる心を捨て、それぞれの持ち場で、自ら運命を切り開こうという意志を持たない限り、私たちの未来は開けません。

・家計のやりくり、教育、子育て、介護、(新しい社会のしくみの形成)。こうした不安に目を向け、一つひとつ対応することも、政治の使命です。

・「車座ふるさとトーク」を始めました。皆さんの声を直接お伺いするため、閣僚が、地方に足を運びます。一人ひとりの(青少年・中年・高年それぞれ)の思いを、直接、具体的な政策につなげていきます。

・(長命で)年老いた親の介護と(自分と子どもの)仕事(と家族への支援)の両立にご苦労される方も、増えつつあります。

・地域のお年寄りの皆さんに、質が高く、必要な介護が行なわれる体制も整えます。

・老いも若きも、障害や病気を抱える方も、意欲があるならば、世のため人のために活躍できる機会を創ります。

・(年齢に関係なく)個々の事情に応じた就労支援をきめ細かく行ないます。

・しかし、どんなに意欲を持っていたり、病気や加齢などにより、思い通りにならない方々がいらっしやいます。こうした方々にも安心感をもつていただくため、持続可能な社会保障制度を創らねばなりません。少子高齡化が進む中、安定財源を確保し、受益と負担の均衡がとれた制度を構築します。

・(高齡者も)自助・自立を第一に、(地域みんなの)共助と公助を組み合わせ、弱い立場の人には、しっかりと援助の手を差し伸べます。(2013・3・15 記)